

# ネット時代の申し子たちでも……

経済学部長 田中 敦

私の誕生日は、ゼミでは機密事項です。以前は気軽に教えていたのですが、私の誕生日を祝わなければいけないと思っているゼミ生がいることが分かり、ちょっとショックでした。ちょうどゼミが1学年飛んで、先輩後輩間での情報の行き来が少なくなったのをこれ幸いと、下の学年のゼミ生には誕生日を聞かれても答えませんでした。

その学年が企画した飲み会が、たまたま私の誕生日に設定されました。もちろん、私はそんなことをおくびにも出さずに、飲み会に出席していました。すると、途中でみんながハッピーバースデーを歌い始めました。せっかくナイショにしていたのに、嬉しいやら悲しいやら……

どうして私の誕生日が分かったのか幹事に聞いてみたら、ネットで調べたそうです。あとで私もネット検索しましたが、広大なネットの世界から自分の誕生日を見つけることはできませんでした。恐るべし、ネット時代の申し子たち。

若い人たちのネット検索の技には驚かされますが、それだけでは必要な情報にたどり着くことはできません。検索の前に、何が必要な情報なのかを考えなければなりません。つまり、ゼミ生は私の誕生日を調べる前に、私の誕生日を調べようと思わないと何も始まらないのです。

実はこれは、情報が溢れているネット時代特有の問題ではありません。印刷物が情報の中心で、今より情報が少なかった時代でも、知りたい情報が何かが分からなくては探しようがありません。今は探し方が大きく変わりましたが、検索技術にたけたネット時代の申し子たちでも、まずは探すべき情報が何かを思いつく必要があるのです。

飲み会企画でも、ゼミの研究でも、ビジネスのプロジェクトでも、調べたり考えたりして結論や具体策・解決策を導き出す前に、まず課題が何かを発見する必要があります。ゼミでの研究で言うと、何をテーマに選ぶのか、そのテーマを取り上げた問題意識は何かがとても重要で、それが研究成果を大きく左右します。ビジネスの世界でも、得てして課

題解決能力以上に課題発見能力が重視されることがあるようです。

課題を発見するには、その分野について十分な知識をもち、考えるためのツールを備えた上で、批判的に考えることが必要

です。経済学部では、経済を中心に知識を得て、考えるツールとなる経済学を学んでもらっています。さらに、批判的に考える機会もいろいろなところで提供されています。

とくに、ゼミは学生が自ら調べて批判的に考えることを実践する大切な機会です。経済学部では伝統的にゼミ教育を重視してきており、基礎演習や研究演習でそのような実践を通して課題発見能力の涵養に力を入れております。ゼミの中だけでなく他のゼミや教員の異なった考え方に触れることも重要で、多くのゼミが参加するインターゼミナール大会を毎年開催しています。しかも、この大会はエコゼミ委員会という有志の学生たちで企画運営されていて、充実した大会となるための課題を彼らが自ら発見し、改善に努めてもらっています。

この『エコノフォーラム21』は、そのエコゼミ委員会と教員との共同編集で発行されています。本号にも、今年度のインターゼミナール大会などのゼミ活動が記録されていますし、座談会やチャペル講話なども収められています。エコゼミ委員会編集ページでは、研究演習を紹介する記事をはじめとして、学生に関心のあるトピックを扱う充実した内容となっています。発行にご尽力いただいた方々に感謝するとともに、多くの皆さんに楽しんで読んでいただけることを願っております。

